

外貨準備の通貨構成から見えること

世界の外貨準備の通貨構成の内訳が IMF から発表された(今年第二四半期末時点)。今回目立ったことは二つある。

一つは、円の割合の落ち込みだ。2018 年第三四半期 (Q3) 以来の 4% 台への減少だ。8 年間ほど 5% 台を堅調にキープしていただけに大きな変化だ。円離れが起こったと言えるだろう。国債の価格下落や円安はテクニカルな減少要因だが、それだけでは説明付かない変化だ。

日本の財政政策や円安に対する海外の懸念の高まり、それを是正するための日米協調介入など、次の期に見られるイベントの前兆でもある。

もう一つは、人民元の割合が 2% 台に乗ってきたことだ。2024 年 Q4 以来のことだ。習近平が、人民元の国際化促進のため外貨準備における人民元の利用拡大を図ると号令をかけたことが契機だ。これまでは 2022 年 Q1 に記録した 2.87% が最高だった。今回はポンドや円に追い付き追い越すことを目指すのではないか。そのためには資本取引の自由化を進めることが必須だが、そこに踏み込むかどうか。

次に各通貨の割合をそれぞれ記す。

ドルの割合は、56.7% だ。減少傾向が続いていた割合が前期には少し戻った (57.18%) が、今期再び 56% 台へ低下した。長期低減傾向に変化はないと思われるが、ドルの長短金利の上昇がどのような影響を与えるのか、次期のデータは興味深い。

ユーロの割合は、20.60% だ。20 年 Q4 以来の高水準だ。ドルの減少の受け皿になった。ドルに次ぐ通貨の役割を担った。ただフランス国債の大幅な価格下落 (イールドの上昇) やユーロ安が次の期に起こるので、ユーロの割合の上昇傾向が次期も続く可能性は低いだろう。

人民元と円の割合は、それぞれ 2.11%、4.96% だ。

ポンドの割合は、4.57% だ。前期より若干増加したが、安定した割合をキープしている。

オーストラリアドルとカナダドルの割合は、それぞれ 2.25%、2.47% だ。最近、A ドルの割合は上昇傾向にあるのに対し、C ドルの割合は減少傾向にある。両通貨とも資源国通貨だが、地政学的リスクを反映しての違いと考えられる。

その他通貨の割合は、6.06% だ。前期 (6.12%) より減少したが、6% 台はキープしている。国際通貨の多極通貨化はまだ生きている。